

道州制に関する各知事の主な発言

(4月22日全国知事会議)

【なぜ今なのか】

- なぜ今道州制なのか。国民全体が納得できる方向づけが重要。
国の統治機構、地方制度のどこに課題があり、どうすれば日本全体が良くなるのか、そもそも論の議論がまず出発点。
- イメージ先行、道州制ありきの法案。
今なぜ道州制を議論しなくてはならないのか。

【役割分担の整理が必要】

- 国と地方公共団体の役割分担を抜本的に見直すことを明確にすること。
自立した行政の権限を地方が有する制度とすること。
- 本来、国、道州、基礎自治体のあり方から道州制議論を始めるべき。
とりあえず省庁間でまとまるような内容に思える。
- 中央省庁解体、市町村合併も触れていない。反対勢力を少なくしている。
都道府県廃止法となっており、むしろ中央集権体制が進みかねない。
- 国と地方公共団体がどういう役割分担をするのか。
道州制でこれから地方自治がもっと進展し日本の発展に繋がるのか議論がさっぱりされていない。
- どういう道州制か、どういう国の形かというところから始まる。
- 国と地方の役割分担、現実に都道府県から道州制に移行する際の技術的な問題など整理が必要。
- 国の視点から見た道州制論議の恐れがある。
最初に国の役割は何か、第二に住民に最も近い基礎自治体がどこまで受けられるのか、第三ではじめて広域行政はどういう形が良いのか。
- 議論をスタートするにしても主な懸念、主な仕組みに対する中身をクリアにしておく必要がある。

【その他】

- 国民不在の形で、国会内で議論されている。
州の中心が集権化され、経済格差、地域格差の懸念がある。
- 道州制の議論で目標と手段が混同している。目標は国民の幸福量の最大化であり、地方分権はその手段にすぎない。